

大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7-11
府教育会館704号
TEL 06-6765-8904
FAX 06-6765-8905

深刻な「過大・過密」「教室不足」 解消のために、新校整備を！

「府内各地に知的障がい支援学校の新校整備を求める請願」署名を大きく広げよう！！

2022年3月、文部科学省が公表した、「公立特別支援学校における教室不足調査」の結果で、大阪府は全国ワーストの528教室不足していることが明らかになりました。大阪府は、これまで児童生徒数の増加に見合う適切な支援学校の整備を行わず、既存の学校に児童生徒を詰め込む、安易な対応を行ってきました。いまこそ、「府内各地域に知的障がい支援学校の新校整備を求める請願」署名の集約をすすめて、大阪府に抜本的な支援学校整備を求めましょう。

「過大・過密」の知的障害支援学校の「教室不足」「教員不足」は深刻



寝屋川支援分会街頭署名宣伝

多くの知的障害支援学校では、普通教室が足りないために、さまざまな特別教室を普通教室に転用し、教材室や更衣室までも普通教室に転用している状況です。特別支援学校設置基準における1クラス当たりの児童生徒の人数(小学部・中学部6人以下、高等部8人以下)を超えた子どもが1教室に詰め込まれている学校も多く、小で10人以上、

中高では13人という編成を行わざるを得ない学校もあります。また、学校の大規模化によって教員配置が減り、教育条件のさらなる悪化につながっています。例えば、児童生徒数452人の府内最大規模の豊中支援学校を2つの学校に分けて試算すると、教員は約14人増えます。そして「教室転用」や「間仕切り教室」などは解消し、よりきまこまやかな教育を実践することができません。また、代替の講師が見つからない事態は深刻で、講師不足数は毎月増加しており、「安全確保がせいじつばい」、「休みたくても休めない」という切実な声が多く上がっています。

全教職員が署名活動にとりくもう

大障教は大阪障害児教育運動連絡会の一員として、大障教の各分会をはじめ、よりよい教育を願う民主団体や労働組合などの協力・共同で運動を広げました。2018年からとりくんできた新校整備を求める署名は、5年間で13万9810筆を集約し、大阪府議会に提出しました。



市内南ブロック街頭署名宣伝

文部科学省は、2024年度までを「特別支援学校整備等のための集中取組期間」とし、新校整備や施設改修等に対する国庫補助を3分の1から2分の1



藤井寺支援分会街頭署名宣伝

引き上げています。大阪府に対して、いまこそ支援学校の新校整備に踏み出すように迫ることが重要です。府立支援学校で子どもたちが劣悪な学習環境に置かれていることを広く府民に知らせ、一人でも多くの署名を集められるよう、大障教組合員の皆さんはもとより、すべての教職員のみならず、ご家族やご友人など、幅広い署名へのご協力を心より呼びかけます。

街頭署名宣伝の予定

11月 2日 (木)	JR桃谷駅	18時
11月 3日 (金・祝)	扇町公園	12時45分
11月 5日 (日)	京阪枚方市駅	12時半
11月11日 (土)	南海堺東駅	11時
11月15日 (水)	阪急上新庄駅	18時
11月18日 (土)	JR吹田駅	14時半

ぜひご参加ください！

大障教ホームページアドレス <http://fc06631220171211.web2.blks.jp/> Eメールアドレス: fushoukyou_1@mtb.biglobe.ne.jp

書記局の kusujū

最近、初対面の方にあいさつをする機会があったが、その時の相手の女性の返答に驚いた。
「お体は大丈夫ですか」
職業を教師と告ぐれば尋ねられたり

右のように短歌でこの時の経験を表現したわけだが、私が言いたいことは教師の多忙化問題が広く国民に知られているという事実である。

全日本教職員組合(全教)は、22年10月に教職員勤務実態調査を行った。大障教の職場でも多くの組合員が調査に参加した。その結果は、1カ月の時間外勤務の平均が小学校93時間48分、中学校113時間44分、高校95時間32分、特別支援学校70時間26分となり、文科省が時間外勤務の上限指針としている45時間をどの校種でも大きく上回っている。10月7日には「このままでは教師のいのちは守れない」と全教など7団体が銀座をパレードし、長時間過密労働解消・教員不足解消を訴えた。いま職場でとりくまれている「長時間勤務に歯止め全国署名」を大きく広げよう。

府労組連(大阪府関連労働組合総連合)は、10月13日秋要求書を府知事に提出し、今年度の賃金確定闘争が開始された。私は秋が深まってくると、組合専従をしていた若い頃の団交(団体交渉)の記憶がよみがえってくる。

無機質な団交部屋の片隅に

婦人部長の置きし蓋(ぼり)あり
府労組連が取り組んでいるひと言ハガキには、「教員が足りない。賃金が低い。早く帰れない」「学校の先生は素敵な仕事」と胸張って言いたいなどと教職員・組合員の切実な声が寄せられている。大幅賃上げ・生活改善 人員増・長時間過密労働解消の切実な要求実現へ、組合に加入しともにたたかおう。

これまでの歩みを学び、次は私たちが

仲間とつながり 一歩ずつ前へ

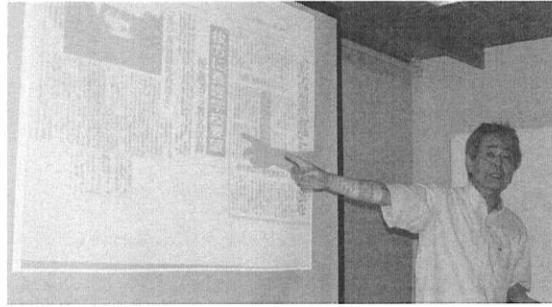


北河内ブロック 分会合同教研



8月4日～5日、今年で10回目となる北河内ブロック分会合同教研を行いました。昨年、一昨年は短時間での実施でしたが、コロナ感染症が落ち着き、3年ぶりに四條畷市のアイ・アイ・ランドで一泊二日の教研でした。交野支援、四條畷校、寝屋川支援、枚方支援、守口支援、光陽支援の各分会から22人が参加しました。

まずは、知ることが大事



「枚方に養護学校を求める運動」について紹介された新聞記事(朝日・毎日など)を示す鈴木さん

1日目前半の学習会では、四條畷校分会の鈴木浩司さんが「北河内の支援学校建設のとりくみ」というテーマで話しました。第1回目の北河内ブロック合同教研で行った内容ですが、若い世代から「これまでの経緯を学習したい」という要望があり、もう一度

組合が教師人生を豊かにしてくれた

後半の学習会では、守口支援分会の西面友史さんが、「私にとつての組合活動」と題して話しました。組合・仕事・家庭のバランスをとりながら、どのような思いで組合活動に関わっているかを聞きました。西面さんは、これまで出会った組合の仲間からの「その時の自分ができることをしたらいい」「組合が教師人生を豊かにしてくれた」などの言葉に支えられてきたと言います。



夜更けまで熱く語り合う参加者

「悩むこともあるが、組合が自分の支えになっていて、支えてくれる仲間の期待に応えたい思いがある。仲間とつながり一歩ずつ前へ進めていきたい」と、力強く話しました。参加者は、「語り合える相手がいると元気になる」「組合が無かったらどうなっていたのか」と、組合の大切さを語りました。

「次は、私たちの手で」

引き継がれていく運動の流れ

2日目の学習会では、「みんなでつくる」をテーマに、授業、給食etc...と題し、日々の実践の中で疑問や不安に思っていることについて語り合いました。知的障害校での自立活動や朝のランニングについて、教育課程や時間割について、偏食指導、保護者との連携、子育てに関する休暇や部分休業、組合活動についてなど、話題は多岐にわたりました。トッパダウンではなく子どもを中心にしてみんなで行く教育の大切さ、保護者や

子どもから学ぶ姿勢など、ベテラン教員からアドバイスを受けながら学習を深めました。子育てなどをしながら働きやすい職場にするために、遠慮せずに休暇制度を活用できる十分な体制が必要なこと、同僚同士でお互いにどれだけ支え合えるか、といった職場作りの話も出ました。青年分会員からは、「同僚から相談されることで増えてきた」「次世代の引継ぎ手として自分のできることをやっていきたい」「先輩の先生から学びたい」という声もありました。枚方支援分会の林先生の司会も10年目になり、学習会でのまとめは素晴らしかったです。この教研の参加が毎年恒例になっている参加者も今回が初めての参加者も、一緒にこれまでの流れを学び、「次は私たちの手で」と、次の世代へと引き継がれていく姿に感動した教研でした。

(光陽支援分会)

佐々木起美子



話しやすい雰囲気の中 全員が発言し、学び合いました